

みる くる かたる

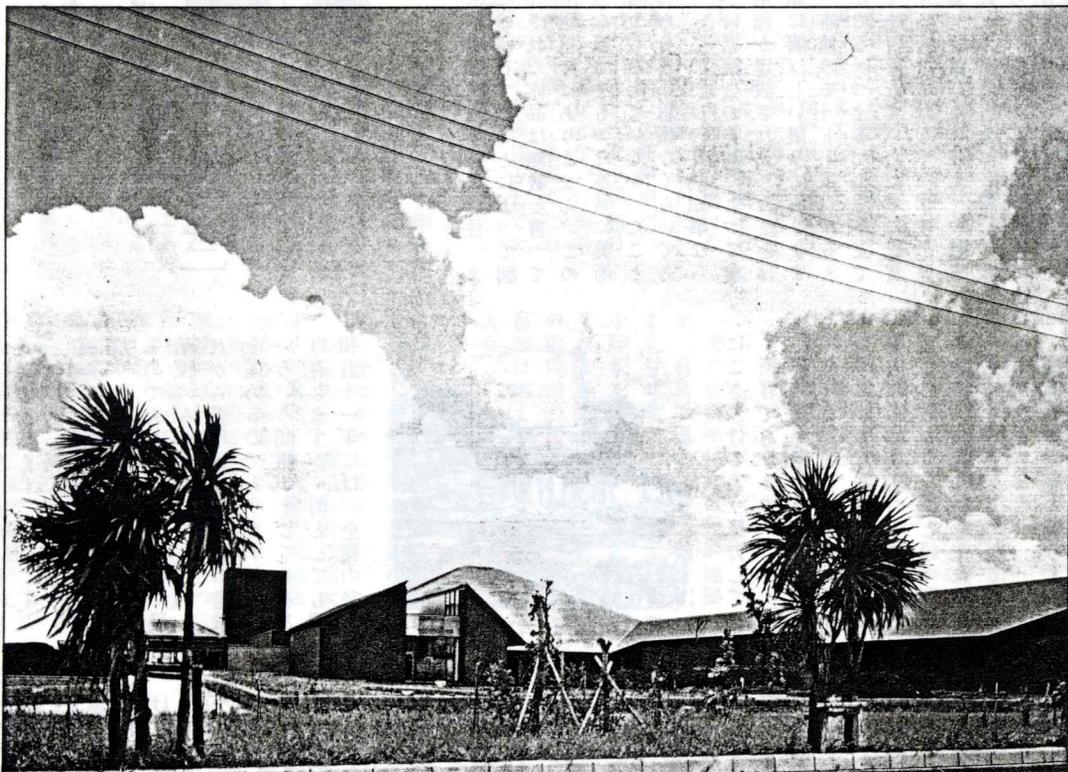
千葉県立美術館報

VOL.1 NO1

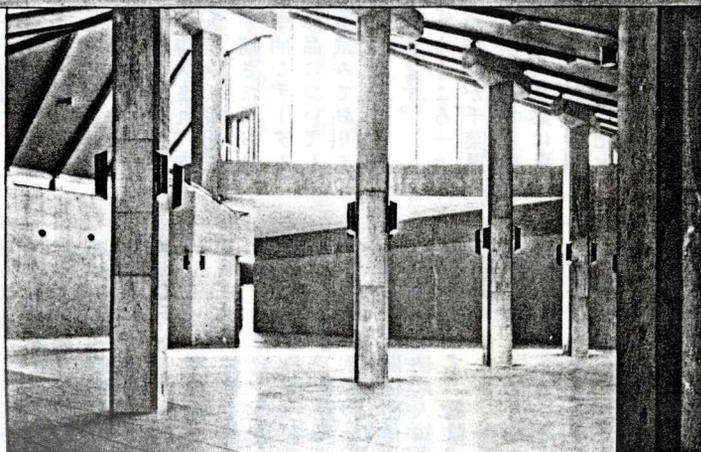
昭和49年9月20日発行
編集・発行人 松戸 節三

〒280

千葉市中央港1丁目10番1号
電話0472(千葉)42-8311(代表)



外観



内部

開館を前にして

千葉県立美術館長

松戸 節三



本年四月、館長に就任して以来約五ヶ月。この間、県内外からこの美術館に寄せられる期待が異常に高いことを知り、館長として、その責任の重大性を痛感している次第であります。目下館員一同、今秋十月二十三日に予定されております開館と、その記念行事の準備に努力を重ねております。さて、美術館の建設に關しましては、二十有余年にわたる千葉県美術会の宿願でありました。

三方海に囲まれ、美しくしかも変化に富んだ房総半島には、古くから数々の芸術作品が生み出されています。明治以降近代になってからも、数々の芸術家が本県に居住、または滞在することによって制作された作品は無数と言つても過言ではありません。この様な風土をもつた本県に美術館が存在していなかつたことはむしろ不思議な事であり、このたびの友納知事ならびに県議会の英断によつて美術館が建設されましたことは誠に喜ばしい限りであります。本館のモットーは「みる・かたる・つくる」の三本立てでありまして、ただ単に鑑賞するだけではなく、学校の児童、生徒はもちろん、一般市民、県民の方々が来館し、自らの手を動かして創作活動にも加わっていただけるよう

楽しい美術館にしたいものと考えております。

つまり、本館こそ千葉県の美術に關するセンター的な役割りを果たしたいと念願しているものであります。現在は、展示棟のみが完成してあり、これから管理棟、教育棟の建設を進めるのでありますから、いろいろ問題が生じてくるとは存じますが、何としても昭和五十一年には、全館の完成



県立美術館 竹尾 潮画

にこぎつけるよう努力していく所存であります。

千葉国際港をひかえた将来の本館は、目下計画が進行しつつある十万坪の千葉臨海公園内の森林公園の中に位置することとなり、海と緑の彩りの中で、市民に親しまれる憩いの場を提供することができるとありましよう。県展や市民展に限らず、本

館独自の特別展、企画展も陸續と計画しております。その内容も、房総を中心にした作家、作品の紹介をしてゆきながら、県外、国外にも目を向け、今まで、東京まで出掛けなければ見ることが出来なかつたいろいろな展覧会も本館に誘致して、公開したいと考えています。

千葉工業地帯の埋立地に建設されたため、亜硫酸ガスとか煤塵、あるいは塩害といつた公害を心配していらつしやる方もいるようであります。建物には細心の配慮がなされ、屋根や壁面の工事も新しい技術が導入され、内部の空気調整あるいは採光についても万全が期されております。また科学的なデータも毎日記録し、作品についても充分なる配慮を試みておりますので、心配はないものと断言することが出来ます。

開館までありますところ一ヶ月余ですが、美術館が千葉県の近代的発展と県民皆さんの芸術性豊かな生活の基盤に資することを願うと共に、管理棟と教育棟の早期完成に絶大な御支援と御援助を賜わりますよう、重ねてお願い申し上げます。

観潮台

県民主体の美術館が、いよいよ活動を始める段階を迎えた。もちろん、展示棟が完成しただけで、管理棟や教育棟の建設が残り限界がともなうが、一応、十月二十四日から、県民の美の広場として公開される。

美術館に十四人会と呼ぶ会がある。去る四月一日付で発令された、松戸節三館長以下十四人の第一陣の職員中心に結成された親睦会である。将来、何十人かの会員になるわけだが、美の広場での奉仕者として、専門性と大衆性を基調としながら、草分けの努力をしようとする。

幸いにも、藤野天光会長中心の県美術会をはじめ、教育、文化関係団体や識者の援護と友納武人知事の英断が反映して、施設、設備も順次具体化し、「観る、語る、創る」総合的な美の広場にならうとしている。使命は重大であるが、とにかく、生活に貴重な審美の心を育てるため、ささやかなコラム「観潮台」を続けたいと思う。(高橋在久)

待望の千葉県立美術館が建設され、美術館報の第一号がここに発行されますことは、誠に喜びに堪えません。

この県立美術館の設立につきましては、美術館創立以来二十有余年にわたる念願でありましたが、今、

ここ千葉市に一万坪の広さを有する敷地に、全国にも類例のない大規模なしかも県民のため、特に子どもにもの価値やもの大切さを教えるための美術館として建設されたことは、偏に、県知事、県議会、県教育委員会、県文化課、美術館設置準備専門委員会、美術館建設懇談会、県民各位、ならびに会員一同の絶大なる御理解と御協力の賜ものと心から感謝いたします。しかし、現状は、美術館の一部である展示棟のみが完成しており、作品を保管したり館職員の事務を執る管理棟や、



創刊に寄せて

藤野天光

千葉県立美術館の最も特質とすべき、子どもにもの価値を知らしむる教育棟の建設がなされていません。これが一日も早く建設の運びとなり、早期全館完成されますよう、県美術館として特にお願います次第であります。

四月より、松戸第三館長以下第一陣の諸君を迎え、美術館としても誠に心強いものを感じます。

この館報創刊に当り、近く開館の運びとなった美術館が、県民のための美術館として大きく発展するとともに、全館完成の喜びと、本美術館の最大の特徴たる教育棟での活動状況が、この館報を通じて発表される日を念じ、美術館といたしまして、その建設の推進に邁進する所存であります。関係各位の絶大なる御支援を切望いたします。

千葉県美術館長
千葉県立美術館協議会議長

夢が真か、夢をつかむような長い間の懸案が実現したのである。難行に難行を重ねた思い出は余りに多かつた。ひとたび、館に入れば広大さと偉容は、ただ眼を見張るばかりである。

余りに長かつた二十余年。友納知事のご英断に感謝しつつも、歳月は流れて三年程経過した。この間、県会議員の諸賢にも懇請に懇請を重ねた。時の話題に県会議事堂の旧館を振りかえてはとの話も有つた。最初千葉公園を適地とし

難行の思い出

浅見志舟

海の近い所に、近代的建築が、空高く聳えた……と言ふよりも、埋立て地を這うような印象をもつ建物が生じた。それが県立美術館である。館の前に始めて立った時の私の目頭は燃えるような感慨を覚えた。

て交渉し、設計図まで作ったが、土地の狭さと、市の体育団体からの異議も有つて、遂にご破算の浮きめに会つて仕舞つた。

何しろ予算十億。用地一万坪。建坪三千という条件つきでの土地さがしは本当に難行した。まず亥鼻荘跡・千葉寺球場・文化会館脇・県職員研修所予定地・千葉市役所裏の埋立地・国体自動車駐車場跡（交通不便）・畜産試験場用地（これは昭和五十年まではだめ）・佐倉の殿様屋敷跡（これは、すばらしい所で堀田市長さんも乗り気になり、自ら案内されたり歴史的存在意義の説明もあり好適地であったが、地理的事情と購入問題などで成立しなかつた。）そこで、この間知事からも提案されたこともあつた海岸埋立地（現在の位置）が再燃したのが道筋であつた。

も見当らず、強引に確定した。県当局としては、学術的根拠を追求し、兎にも角にも現在地に実現を見たわけである。思えば、難行の歴史を秘めた過去も、今になれば誠に貴くもある。

日本にも誇り得るこの美術館完成後は、内に多くの芸術品の蓄蔵につとめ、外には、本県の芸術文化の普及に勉めねばならない美術館の使命はまことに重、且つ大である。県都、千葉市に燦然として輝くこの偉容が県下三百余万人の魂の浄化に寄与することの多からんことを念願するといふ。

今、ここに、これに最善のご協力を賜つた諸賢と共に、喜びの一端と過去の行程を記して。

千葉県美術館事務局長
千葉県立美術館協議会議長

現在位置も塩害や公害の中の美術館として是不適当であるとの声が喧々囂々として生れた。しかし条件を入れ得る土地

県民待望の美術館

大野 政治

待望の県立美術館が県都に建設され、今秋には開館されることになった。

想えば随分と長い間、設置の場所などで廻り道をして、ようやく建設されたのであるから関係者の喜びは一段と深いものがあるであろう。とにかく喜ばしいことである。

年々盛んになってきた県展も、文化会館を会場に借りないで、今度からは、この美術館の広い展示場を充分生かしてつかえるので、ゆとりのある展示会場で、静かに県民の作品を鑑賞できることであろう。

どうも、日本人のくせで、多くの作品や展示物をゴテゴテと飾りつける傾向がある。床の間にかけられた茶がけの一幅、その下に置かれた香炉の一つに、訪れた人々は深い感銘をうけた話をきく。静寂の中に見る美しさである。

県立美術館の構内にこうした所があっても良いのではないか。「モナリザ」が展示されると、われもわれもと暑い日射しの中を押しかけ、人いぎれの群集の中で鑑賞する人々の中には、ただ単に話の種にあるいは私は名画を見てきたといつて、いかにも芸術に對し深い関心を持つているかを他人に誇示するような人がいないでもない。

県民をして静かな雰囲気の中で、すぐれた作品を鑑賞するマナーを与え、同時に美術を愛好する心を小さい時から育成し、そして次第に県民をして審美する心を養うことを美術館はその基本構想の内に入れている。これらの配慮に加えて、私は、県下の多くの社寺にある絵画・彫刻などある時期に展示し、或は房絵の自然美を画いた絵画など一堂に集め、遠く足を運ぶことな

しに鑑賞し得るならば、県民の郷土に對する関心も高まり、県民意識も深めることとなるのではないかと考える。

これと共に、これらの社寺の美術品の保存管理に對しての指導なども、美術館の館外活動の一つとして頂けたらと望んでいる。

われわれのような地方小博物館に、よく書画を見てくれと持つてこられるが、専門職のいない地方博物館では困難なことである。幸い館長以下優秀なスタッフで構成された美術館の、その活動と運営にはわれわれ博物館人としても大いに期待するところが多い。このことは職員特に学芸員諸氏の研究と教養と不断的努力を信頼するからである。

画期的な美術館の発展を望んで、お祝いの言葉とする次第である。

(成田山史料館長)

千葉県立美術館誕生にあたり、「美術館バンザイ」と声を大にして叫びたい気持である。この叫びは恐らく私一人の小さな叫びではなく、待ち望んでいた県民の多くの人々の声であると思います。

今まで県民としては大変淋しいことですが、しばしば文化の低さを指摘されてまいりました。工業面においては、あれよあれよという間に素晴らしい発展を遂げて来ましたが千葉ですのに、何故文化面が

の誕生です。正に時を得たこの美術館の誕生は県民のこれからの文化面に大きく寄与していくものと期待されます。この美術館の誕生をきっかけとして、広く県民の文化の向上の輪を広げていくことは、とりも直さず生活全般のレベルアップに繋がることであり、千葉県民全体が高い文化に裏付けされた豊かな文化生活を送ることが出来るよう指導的な役割も果たして欲しいものと思います。それには県内の各

県立美術館誕生に思う

新城留理子

遅れてしまったのでしょうか。それは千葉県の人の間に芸術性を持った人々が少なかつたということでは決してないと思います。東京に近いという千葉県の立地条件から県民自体も自然のうちに文化的な面は東京にたよっていた点もあるように思います。

だからといって県民に熱望がなかつたという訳ではなく、何となくその熱望を言い表わすきっかけがなかつたのだと思います。そこにこの美術館

所にそのコミュニティの大きさに応じた「美術センター」的なものをもっと増やして、地域の人々と密接に繋がりが、その継がりのなから、県民の文化面の底上げは自然に出来てくるのではないかと思います。

その意味で、千葉県立美術館の誕生は非常に大きな意義を持つと同時に、県民の期待をになつていると言えます。

(ニューパークホテル副社長)

美術館の

運営概要

決る

千葉県立美術館の一部、展示棟が東京湾を埋め立てて造成した千葉市の一角に、昭和四十九年三月に竣工し、四月一日付けで機関設置され、館長松戸節三以下十四名の職員が配属された。美術館誕生の地は世界に通ずる国際港の千葉中央港と東京湾が展望でき、近い将来に造成される臨海公園の中核となる所です。

美術館の性格と運営方針は次のとおりです。

◇基本的性格

- ①千葉県民の生活を豊かにする、審美の心を培い、主体的で調和を秘めた、人格の完成をめざすための美術館でありたい。
- ②千葉県民主体の、地域と世界、歴史と現代に立脚した、「観る、語る、創る」行動的な機能を備えた美術館でありたい。
- ③千葉県民のため、現代美術の振興普及と歴史的な美術資料の整備、研究、公開の

拠点としての美術館でありたい。

◇運営方針

- ①県民主体の原則を一貫させ、明るい親しまれる美術館をめざす。
- ②学校教育と社会教育との関連を重視した「教育棟の学習構想」で楽しみ多い美術館をめざす。
- ③県民と美術家の交流の広場として、相互の理解と向上をはかる美術館をめざす。
- ④千葉県の風土と歴史から生まれ、さらにかかわりのある美術家の作品や関連資料

の宝庫としての美術館をめざす。

⑤美の広場として、日本内外の美術資料と情報の収集の公開活用をはかる美術館を

美術館協議会委員委嘱さる

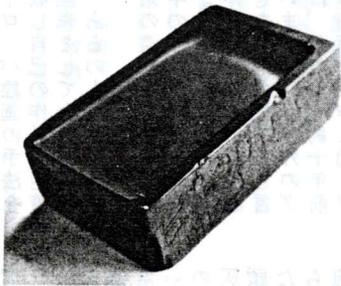
⑥美術資料の充実と事業振興のための支援組織「仮称」千葉県美術振興会」を基礎にした美術館をめざす。

美術館の円滑な運営を図るため、館長の諮問機関として千葉県立美術館協議会が発足し、昭和四十九年七月一日付けで発令されました。委員の方は次のとおりです。

- | | | | |
|-----|------|-----|--------|
| 議長 | 藤野天光 | 副議長 | 鈴木民三 |
| 副議長 | 浅見喜舟 | 委員 | 青木幸子 |
| | | 委員 | 川名良一 |
| | | 委員 | 郡司幹雄 |
| | | 委員 | 奈良坂昂 |
| | | 委員 | 長谷川喜三郎 |
| | | 委員 | 牧田茂 |
| | | 委員 | 村上恒雄 |

《美の根》 蘭亭硯

昭和二十五年前後は斜陽族と称して、物持ちが重要品まで生活の資に代えた時代だった。これには宋古端溪とあり、「出先は確かだから買って置かないかと」言う話で、手に入れたものである。以来愛用しているが、どれ程、骨董的価値のあるものは、専門家に任せるより仕方なかった。ところで、ある時、(二年前

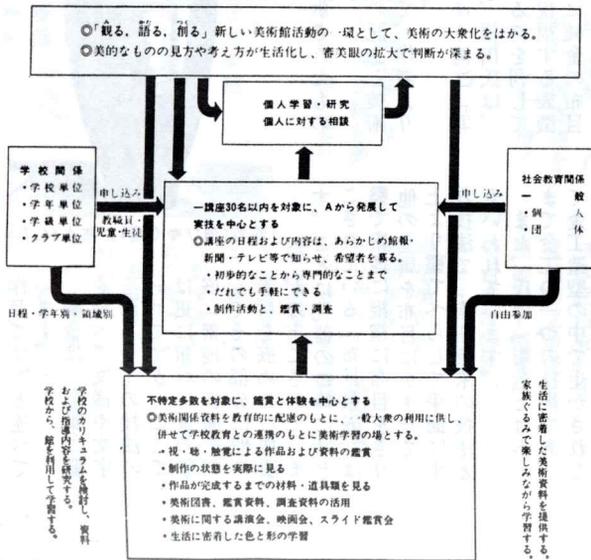


蘭亭硯

前)東京のある専門店の主人が来た時、これを見せた。

その時、千葉に蘭亭硯があるという話は聞いていないが、拝見しようといった。お目にかけた途端に「惜しいことをしたものだ……。これは蘭亭硯を実用硯に改装したもので、かえって価値を落してしまつた。しかし、側面の刻からしても確かなものだ」と保証してくれた逸品である。日本でも中国でも「古名硯」と称せられるものは美術品でも最高に位置すと言はれている。(浅見喜舟)

教育棟の学習構想



収蔵作品紹介 (1)

「農婦」 浅井 忠 (1856-1907)

本館で所蔵する「農婦」と題するこの八号大の油絵は、浅井忠の滞欧作の中で、数少ない人物画の一点です。

浅井忠と言えば、工部美術学校時代の師であるイタリア人画家フォントナージの抒情的な自然主義を学び、それを日本的な田園風景として完成した画家として高く評価されていますが、黒田清輝との比較では旧派の画家として見られた面もありました。しかし、その後美術学校の教授としてフランス留学を果した浅井は、ヨーロッパ絵画の伝統と印象派の雰囲気に入

れて天稟の素質を發揮しました。ヨーロッパ絵画の手法をよく吸収し自己の作品に定着させた画家として今日再評価されつつあるのもうなづけます。

二年余の滞欧中でも、明治三十四年の十月から三十五年の三月まで滞在了たグレーにおける作品は、浅井の全生涯の頂点をなすものであると言われています。パリ郊外のグレー村は、それより約十年前には黒田清輝も制作に励んだ所で、風景の美しい静かな農村だったようで、浅井はこの風景に惹かれて連日野外写生にうち込んだと言われています。この時期に描かれた油絵や水彩画は浅井の新境地をしめす秀作ばかりですが、その中には冬から春先にかけて描いた人物画が何点あります。この「農婦」もその中の一点で、画面の向つて左下に、
Le 7 Fevrier 1902 とあつ



「農婦」明治35年(1902年)2月作 44.0cm×32.0cm

て、明治三十五年二月の制作であることがわかります。

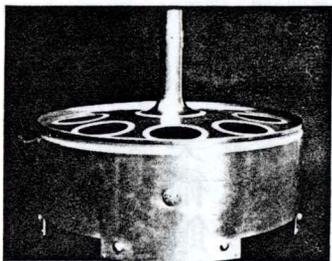
おそらく近所の農家のおかみさんに頼んでポーズしてもらったのでしょうか、大胆な筆使いでいかにも習作的ですが、素朴な農婦のモデルなれしない緊張感までその表情や姿態の中にとらえられています。灰褐色の背景と灰青色の服や頭布によって一見地味で目立たない画面ですが、右上方からの光線が農婦の頭部から胸腕にかけての部分明るく浮き上らせ、左上方の背景の明るさとの対比によって人物像を見事に造形的に表現しています。特に顔の表情に少しのかたさもなく、習作的だがよくその造形的骨格をとらえつつモデルの性格的な面までも描写しているように思われます。一般には風景画家として見られています。人物画家としてもすぐれた力を持つていたことを示す貴重な作品であると云えそうです。

(佐藤 清)

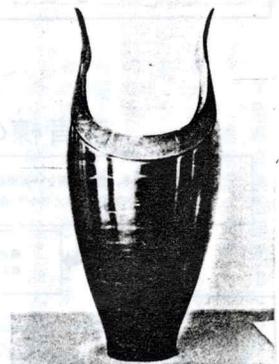
「伸びゆく湾」 「九曜盤」

信田 洋

「花器(伸びゆく湾)」は昭和三十九年第七回新日展に「九曜盤」は同四十五年第二回改組日展に出品された作品です。また、この両作品は、昨年十月に当県で開催された



「九曜盤」 高さ28.3cm



「花器(伸びゆく湾)」 高さ44.7cm

国体で、天覧に供されたものです。

このたび、その記念と美術館の開館を祝して、作者より寄贈されました。

「花器(伸びゆく湾)」(写真右)について、信田氏は、「千葉県が抱える湾を利用して伸びゆくさまを祝福する表徴作品です。銀材に純金の布目象嵌を加工してあります。また「九曜盤」(写真左)については「千葉氏の定紋九曜星に大陽神の象徴「スカラベ」を配し、開運の水盤にまとめた

作品です」と述べています。

彫金は、金属に鑿を使って文様や文字を彫る金工の技法の一つですが、ここでは更に銀材に金の象嵌(素地の表面を刻んでその部分に他の素材を嵌めこむ技法)がほどこされてい

ます。ことに花器の口縁にほどこされている「布目象嵌」は鑿で素地に縦横に布目をきり、他の金属を布目にかませ、上より鑿でへらして平面にする技法で、南蛮渡来の技法ともいわれています。

また、氏は「彫金とはあくまで金工の一つの技術であつて金工造型の中で生かされなければならぬ」と考へる。形と金属の肌の美しさに役立ちする技術でなければならぬ」とも述べられていけるように、それはあくまでも作家の個性を表現する手段であるといえます。

この両作品は、金工のもつ繊細な力強い特色をよく生かして、氏の独自の世界を創りあげています。それには長い経験と研究に基づいた技術とその技術を超えた新しい発想によることはいまでもありません。

(小野 禮子)

美術館のお知らせ

県立美術館開館記念の県展
開催

千葉県美術会は、県立美術館の誕生を祝し、十月二十四日より十一月十七日まで第二十六回県展を開館記念として開催します。

開催の趣旨

本展は県立美術館の開館を記念し本県の美術家の作品を広く紹介するとともに、県民の美意識を高め、郷土美術文化の振興と情操の純化に資する。

主催

千葉県美術会、千葉県教育委員会

後援

千葉県

会場

千葉県立美術館

会期

従来の五部門同一会期から前後二期制に変わった。理由の一つに出品作品の規格が倍になったことがあげられる。

入場料

無料
なお、開館記念式典が十月二十三日(水)に多数の来賓をお迎えして挙行される予定です。

なお、詳細についての問い合わせは、県立美術館または千葉県美術会事務局(千葉市末広町一ノノ六、浅見方。電話 千葉 22-2710)へ御連絡ください。

昭和49年度展覧会

今年度計画の展覧会は、県展終了後に次のものを予定している。

「千葉県高等学校美術展」十一月二十一日から二十四日まで。

「千葉県勤労者美術展」十一月二十八日から十二月一日まで。

特別展「美術と房総の二〇〇年・描かれた房総」(仮題)昭和五十年一月十八日から二月二十三日まで。

「第六回千葉市市民美術展」昭和五十年三月二日から三月十六日まで。

寄贈作品

▲昭和四十九年五月二日、現代美術家協会常任委員竹尾潮氏より、洋画作品「破壊」一点 ▲六月二十六日に創型会同人片倉仁氏より彫塑作品「喝き」一点 ▲七月十二日には友納知事、市原県議会議長の御努力により県議会議長室に展示されていた芸術院会員・文化勲章受賞者東山魁夷氏の日本画作品「門」一点 ▲七月十六日の友納知事美術館早朝視察の折、日展評議員信田洋氏より工芸品「銀九曜盤」一点、「銀花器」一点右の御寄贈を受けました。ここに記し厚く御礼申し上げます。

受贈資料

本館の開館準備に際しまして、左記の館より諸資料を御惠贈賜りました。厚くお礼申し上げます。

- 東京国立近代美術館
- 東京都美術館
- 神奈川県立博物館
- 神奈川県立近代美術館
- 埼玉県立博物館
- 栃木県立美術館
- 群馬県立博物館
- 山形県立博物館

- 山口県立博物館
- 佐賀県立博物館
- 沖繩県立博物館
- 兵庫県立近代美術館
- 和歌山県立近代美術館
- 長崎県立美術館
- 宮崎県総合博物館
- 北海道立美術館
- 北島県立美術館
- 長野県信濃美術館
- 新潟県美術博物館
- 秋田県立美術館
- 石川県立美術館
- 神戸市立南蛮美術館
- 北九州市立八幡美術館
- 日本民俗資料館
- 高岡市立美術館
- 高岡市立博物館
- 仙台市博物館
- 浜松市美術館
- 箱根美術館
- 熱海美術館
- ブリヂストン美術館
- リッカー美術館
- 礪波美術館
- 大原美術館
- 徳川美術館
- 佐野美術館
- 紙の博物館
- 白鶴美術館
- 石橋美術館
- 大和文華館
- 大倉集古館
- 龍子記念館

館員寸言



館長 松戸 節三
粒揃いの美術館員に
ささえられて、教育棟・管理棟の完成を目指す。



副館長 高橋 在久
文化課や博物館新設
に関与してきたが、いま奉仕
には、一期一会の心の尊さを
しみじみ思っている。



庶務課長 渡辺 三郎
若さは二
十代、心は
母、笑みを忘れない毎日を。



学芸課長 石井 則孝
ひとは、
石器時代の
大昔より、美を求める心は変
らない。私もその一人であり
たい。



主任主事 佐藤 清
人は作品
の後で目立

たぬよう、良い作品を見ても
らえるよう努めます。



主任主事 佐藤 信夫
美の芽、
中央港の若
い樹、美術館は県民と共に伸
びる。



主任主事 久保木 良
県内美術
の振興に砂
粒程でも役立てば幸い。



学芸員 小野 禮子
丈夫であ
ること、何
にでも興味をもつこと、親切
であること。



主事 高橋 勝利
現代人に
足らざるも
のは、心の美。さあ、美術館
へ行って、心の美しさと出会
おうよ。



学芸員 米田 耕司
美術館が
世の中心に

あるとは思わないが、人間に
とって必要な存在でありたい
と思う。



主事 菅井富美子
美術関係
には全くの
素人が美術館勤務とは？



学芸員 大久保 守
美術館は
街から遠く
はなれていきますので、おいで
くだされば、心から歓迎しま
す。



学芸員 藤川 正司
美術館を
通じて出来
るだけ多くの方々と接し、そ
だていろいろ勉強させていた
だきたいと思っています。



学芸員 前川 公秀
蟻は、山
にトンネル
を掘ろうと考えた。むなし
いことと知りながら、それし
かないと信じた。



事務助手 石毛 和恵
落語と絵
画に人生の
糧を求め、珈琲の苦さに人生
の哀樂をかみしめる。

館員の動静

◇佐藤信夫主任主事のプロ
ンズ作品「愛と希望の像」が
出身地茂原市民があらゆる困
難を乗り越え、永遠の光明と
前進をかちとるためのシンボ
ルとして、茂原市中央公民館
前広場に今年七月二十五日に
建設された。裏面の詩は「愛
と希望の像に寄せて」と題し
刻まれている。

市民よ手をつなごうよ
陽光さんくくとふりそ、ぐ
日も
風たけり、雨狂う日も
あか／＼と燃しつづけよう
愛と希望の灯を……

◇高橋在久副館長はすでに
「生活の年輪」を始め多数の
著書があるが、昨年末創樹社
から「房総昔話散歩」を刊行
ついで九月には県立上総博
物館長平野馨氏と共著で第一
法規から「日本の民俗・千葉
」が刊行された。

編集余録

千葉県立美術館
が機関設置された
のが昭和四十九年
四月一日。未完成
の建物だが十四人
の職員が発令され、事務室も
ないまま百坪の第六展示室の
中に住むこととなった。

配属されてまもなく、美術
館前の草むらからヒバリが飛
び出し、天空に舞い、明るい
鳴き声を響かせていた。ある
土曜日の午後某氏等と美術館
裏の海辺に行つてバカ貝を採
った。学のある某氏は「別名
アオヤギといい、千葉県市原
市の産地から名付けられた」
と説明した。その後、開館計
画だ、予算書の作成だ、平常
展の計画だ、何だかんだとみ
んな仕事に追い回されている。
そんな昨今ヒバリに変わって
いまでは一面のマツヨイグサ
の草原と化した美術館前面に
目をむけながら館報計画にあ
たった。しかし何事も初めて
の自分は暗中模索。諸氏の指
導あつて、ようやく館報刊行
と相成つた次第。次号からは
研究熱旺盛の学芸員諸君の研
究論文等を掲載する。同時に
読者の苦言やおしかりをまっ
と考えている。御期待を乞う。
(良)